

# 明星大学教則

平成25年4月1日  
制 定

## 第1章 総則

(趣旨)

第1条 この教則は、明星大学学則（以下「学則」という。）第3条の2他に基づき、学部又は学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的等、並びに明星大学（以下「本学」という。）の学生の学修について必要な事項を定める。

(適用)

第2条 この教則は、本学の学部在籍する学生（以下「学生」という。）に適用する。ただし、学則第57条及び第58条により入学を許可された者は除く。

(人材の養成に関する目的等)

第3条 明星大学の定める全学共通教育の目的、及び学則第3条の2に基づき、学部又は学科（以下「学部等」という。）の人材の養成に関する目的は、別表第1に定めるとおりとする。

2 学部等のその他教育研究上の目的を構成する学位授与方針、教育課程編成・実施方針、及び入学者受け入れ方針は、別表第2、別表第3及び別表第4に定めるとおりとする。

## 第2章 進級基準・卒業の要件

(進級基準)

第4条 学則第28条に基づき、各学部教授会が定める進級基準は、別表第5のとおりとする。

(卒業の要件)

第5条 学則第33条に基づき、各学部教授会が定める卒業の要件は、別表第6のとおりとする。

## 第3章 履修について

(履修登録)

第6条 学生は、学則第22条に基づき、毎学年次のはじめの指定された期間に、履修しようとする授業科目の登録（以下「履修登録」という。）を行わなければならない。

2 履修登録をしていない授業科目は、単位を修得することはできない。

3 学部長が必要と認めるとき、第1項に定める指定の期間以外に、履修登録をした授業科目の追加又は取消しを行うことができる。

(履修登録の条件)

第7条 履修登録できる授業科目は、入学年度に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

2 前項にかかわらず、編入学した者が履修登録できる授業科目は、編入学した学年に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

3 履修登録は、原則として授業科目ごとに指定された学年又はクラスで行わなければならない。

4 同一科目を重複して履修登録すること、及び既に単位を修得した授業科目を履修登録することはできない。

(再履修)

第8条 学生は、当該年度に履修した科目の単位を修得できなかった場合、再度履修登録すること（以下「再履修」という。）ができる。

第9条 4年生に進級した学生の再履修の必修科目と卒業研究その他の必修科目の授業の時間が重なる場合、受講については学部長が定めるものとする。

(聴講)

第10条 学生は、単位修得を目的とせず、本学が開設する授業科目を受講すること（以下「聴講」という。）ができる。

2 聴講を希望する学生は、在学生聴講許可願により当該授業科目を担当する教員の許可を得たのち、教務企画課に届け出なければならない。

## 第4章 授業について

(開講期間による授業科目の種類)

第11条 開講期間による授業科目の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 通年科目 : 学年30週にわたって開講する科目
- (2) 前学期科目 : 前学期15週にわたって開講する科目

(3) 後学期科目 : 後学期15週にわたって開講する科目

(4) 集中講義科目 : 一定期間に集中して開講する科目

(授業時間)

第12条 授業を行う時間帯は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 1時限目 9:00~10:30

(2) 2時限目 10:45~12:15

(3) 3時限目 12:55~14:25

(4) 4時限目 14:40~16:10

(5) 5時限目 16:25~17:55

(6) 6時限目 18:10~19:40

(緊急時の措置)

第13条 台風・大雪・地震等の各種自然災害、大規模な事故・ストライキ等による交通機関の運行停止及びその他不測の緊急事態の発生又は発生が予測される場合、学長は授業の中止、休講又は短縮等の措置をとることができる。

2 前項に係る情報伝達は、学内放送及び本学のウェブサイト等適切な方法で行う。

3 前2項は、試験にも適用する。

(学修等に関する情報伝達)

第14条 学修等に関する情報伝達は、原則として、本学の所定の掲示板にて行う。ただし、必要に応じて、本学のウェブサイト等を使って情報伝達を行う。

(正当な理由による授業欠席の取扱い)

第15条 学則第25条に定める正当な理由とは、大学又は公的事由及び私的事由とする。

2 前項に定める大学又は公的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 教育実習、福祉実習、介護等体験及びインターンシップ等の実習科目等

(2) 本学が主催する留学

(3) 裁判員裁判への出席

(4) 感染症

(5) 課外活動

(6) 就職試験

(7) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

3 前項第4号に定める感染症とは、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。

4 第2項第5号に定める課外活動により授業欠席を考慮される団体は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 明星大学学生会規約により公認された体育会又は文化会に所属する団体

(2) 明星大学吹奏楽団及び明星フィルハーモニー管弦楽団

5 第2項に定められた事由により授業を欠席する学生は、半期2回までの欠席を当該授業科目の受験資格に係る授業回数から除外する。

6 第1項に定める私的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 交通機関の遅延

(2) 忌引き(配偶者及び第1から第3親等)

(3) 傷病(感染症を除く)

(4) ボランティア活動

(5) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

7 授業欠席の取扱いについて、各学部長の判断が異なる事由については、学長が判断するものとする。

(授業欠席の届出)

第16条 前条により授業を欠席する学生は、別表第7に定める必要書類を添え、当該授業科目の担当教員に提出しなければならない。

## 第5章 試験について

(試験)

第17条 学則第24条に定める「定期的に行う試験」は、主として学期末に行う試験をいう。ただし、授業科目によっては、授業期間内で随時行うことがある。

2 学則第24条に定める「臨時的に行う試験」は、追試験とする。

3 試験には、レポート等成果物によるものを含む。

(レポート等成果物の提出)

第18条 学生は、レポート等成果物を提出する場合、当該授業科目の担当教員の指示に従い、指定された期日までに指定された場所に提出しなければならない。

(受験)

第19条 試験を受験する学生は、試験監督者の指示に従わなければならない。

2 前項に定めるもののほか、学生は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 学生証を携行し、机上に提示すること。学生証を忘れた者は、受験許可票の交付を受け、提示すること。
- (2) 受験のために使用を許可されたもの以外の物品は、指示された場所に置くこと。
- (3) 答案用紙には、氏名及び所属する学部・学科・学籍番号を明瞭に記入すること。
- (4) 配布された答案用紙等は、退出の際に必ず提出すること。

3 原則として、試験開始後20分を超えて遅刻した場合、当該授業科目の試験を受験することはできない。  
(追試験)

第20条 学則第26条に基づき、追試験を願い出ることができる事由とは、大学又は公的事由及び私的事由とする。

2 前項に定める大学又は公的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 教育実習、福祉実習、介護等体験及びインターンシップ等の実習科目等
- (2) 本学が主催する留学
- (3) 裁判員裁判への出席
- (4) 感染症
- (5) 課外活動
- (6) 就職試験
- (7) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

3 前項第4号に定める感染症とは、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。

4 第2項第5号に定める課外活動により追試験を願い出ることができる団体は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 明星大学学生会規約により公認された体育会又は文化会に所属する団体
- (2) 明星大学吹奏楽団及び明星フィルハーモニー管弦楽団

5 第1項に定める私的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 交通機関の遅延
- (2) 忌引き（配偶者及び第1から第3親等）
- (3) 傷病（感染症を除く）
- (4) ボランティア活動
- (5) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

6 追試験について、各学部長の判断が異なる事由については、学長が判断するものとする。

(追試験の願い出)

第21条 前条により追試験を願い出る学生は、指定の期日までに追試験受験許可願及び必要書類等を教務企画課へ提出し、学部長の許可を得なければならない。

2 追試験に必要な書類及び試験料、並びに採点基準は、別表第8に定めるとおりとする。

## 第6章 成績について

(成績の評価)

第22条 学則第27条に基づく各授業科目の成績の評価、評語及び評価基準は、別表第10のとおりとする。

2 修得した成績の評価を取り消すことはできない。

(成績の評価に係る異議申立て)

第23条 学生は、成績の評価に対する異議があるときは、別表第11に定める条件を満たした場合のみ当該成績に係る異議申立てをすることができる。

2 成績に係る異議申立てを希望する学生は、指定された期間内に、教務企画課に必要書類を提出しなければならない。

(GPAによる成績評価)

第24条 GPA（グレードポイントアベレージ）とは、履修登録したGPAの対象となる授業科目（以下「GPA科目」という。）の試験成績の評語ごとにGPを付して当該授業科目の単位数を乗じ、その総数をGPA科目の総単位数で除した値のことをいう。

2 本学が定めるGPは、別表第12のとおりとする。

3 GPAは小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で表す。

4 不合格科目を再履修した場合、再履修の評価が前の評価に上書きされ、上書きされる前の当該単位数は総履修登録単位数から除外される。

5 GPA科目は、原則として、合否判定科目と単位認定科目を除く科目とし、卒業研究や教職・資格科目を含むものとする。

## 第7章 非違行為について

(学修上の本分に反する行為)

第25条 学則第55条に基づき、学修上の本分に反する行為（以下「非違行為」という。）は、明星大学学生の懲戒に関する基準の別表に定めるとおりとする。

2 前項に定めるもののほか、非違行為は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 代返等、授業時の出席確認の際の不正行為

(2) 他人のアイデアの盗用等、レポート等成果物提出の際の不正行為

(3) その他、前2号に定める行為に準ずる行為

3 前2項に定める非違行為があった場合は、明星大学学生の懲戒に関する規程及び明星大学学生の懲戒に関する基準のほか、学長の判断により処分されることがある。

## 第8章 その他

(委任)

第26条 この教則に定めるもののほか必要な事項は、学部長会の意見を聴いて、学長が定める。

(改廃)

第27条 この教則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この教則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この教則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この教則は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1-1 全学共通教育の人材の養成に関する目的

全学共通教育	全学共通教育は、世界に貢献する人として必要な、基礎的且つ幅広い教養を身に付け、知性、感情、意志、及び心と体のバランスのとれた人格の育成、総合的な思考力と的確な判断力を持ち、自立し、世界の人々と共生できる人の育成、自ら積極的に学び考える、自己教育能力を持つ人の育成をする。
--------	---

別表第1-2 学部・学科の人材の養成に関する目的

1. 理工学部	理工学部は、技術立国日本を支え、人類の豊かさに貢献するため、幅広い教養と、理学と工学の知識と技術を基礎とした「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い技術者を育成する。
2. 人文学部	<p>人文学部は、人間の尊厳に関心を持ち、幅広い教養と人間と社会に対する専門的教養を身につけ、人文科学に基づく専門性と積極的かつ実践的に問題解決に取り組む資質を持って社会に貢献する人を育成する。</p> <p>人文学部の各学科の人材養成の目的は、以下の通りである。</p> <p>(1) 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科は、幅広い教養を身につけ、コミュニケーション・言語研究・異文化理解の領域を横断的に学ぶことを通して、豊かな専門的力を有し、他者と積極的に関わりながら、互いに理解・協力して問題解決を図り、ビジネス・教育・国際協力などの分野で社会貢献できる人を育成する。</p> <p>(2) 人間社会学科 人間社会学科は、幅広い教養を身につけ、社会的な思考と社会調査に関する専門知識を有し、市民生活において主体的に物事に関心を持てる人、多様な他者の存在を受け入れながら、論理的かつ複眼的な視点から問題を解明する社会学的視点を身に付け、不断に自分の人生をデザインできる人を育成する。</p> <p>(3) 日本文化学科 日本文化学科は、幅広い教養を身につけ、日本固有の伝統文化を深く理解し、それを継承発展させる人、伝統的側面と比較文化的側面の両面から、世界の中の日本文化の立場と意味を理解し、その独自性と普遍性を積極的に広く発信できる人、及び自らの考えについての確かな日本語運用能力をもって表現できる人を育成する。</p> <p>(4) 福祉実践学科 福祉実践学科は、幅広い教養と福祉分野の素養を基礎に専門的力を有し、福祉の視点と技術を活用できる福祉社会人と、ソーシャルワークの専門性を備えた実践力のある福祉職業人を育成する。</p>
3. 経済学部	経済学部は、本学の建学の精神である「和の精神」の下、グローバル社会を視野に入れつつ、企業活動を通じ社会に貢献できる人、地域の活性化・発展に貢献できる人、社会生活に関わる現場で活躍できる人等、経済の専門的知識、問題解決のための教養とコミュニケーション能力を備えた、社会の多様なニーズに応えうる情熱と人間味ある人材を育成する。
4. 情報学部	情報学部は、情報技術の目覚ましい発展や、めまぐるしい変化に柔軟に対応できる能力とコンピュータに関わる基礎知識や専門知識を有し、その応用利用分野で幅広く活躍できる人、またコンピュータの基礎知識を有し、各分野に対応可能な実用的プログラミング能力を修得し、新しい技術にも柔軟に対応できる人材を育成する。
5. 教育学部	教育学部は、人間に対する深い洞察力と共感的態度を養い、学校教育及び保育・幼児教育についての専門的な知識と技能並びに幅広い教養を身につけた教員、保育士及び教育・福祉問題に創造的に関わる人を育成する。
6. 経営学部	経営学部は、経営の全体像と専門分野で身につけたスキルを生かし、情報化、国際化、社会発展への貢献など多様化する企業の行動様式を広く科学的、実践的に捉え企業経営の進路を創造的に切り拓く、豊かな人間性を備えた人材を育成する。同時に高い教養と

	常識、経営の専門知識と技能を持ち、企業経営に関する問題の発見とその解決能力を身に付ける人材と広い視野と協調性に富み、企業・社会に貢献できる人材を育成する。
7. デザイン学部	<p>1 デザインの本質の一つである実現可能な「企画」を提案する能力と様々な分野に応用・展開できる能力を身につけた人材。</p> <p>2 培われた説得力のある「表現力」を発揮して、社会に貢献できる基礎能力を身につけた人材。</p> <p>3 あらゆる場面で「企画力」と「表現力」を活かし、社会における自分の責任と価値を見いだすことのできる人材。</p>
8. 心理学部	心理学部では、実践的教養としての心理学に関する専門的知識及び技能をもって社会に貢献できる人材を養成する。具体的には、①人間一般の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身につけた人材、②社会集団の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身につけた人材、③青年期・成人期を対象としたアセスメント及びカウンセリングの理論と技能を身につけた人材、④幼児期・児童期を対象としたアセスメント及び臨床的介入の理論と技能を身につけた人材を養成する。

別表第2-1 全学共通教育の学位授与方針

全学共通教育	<p>(情報リテラシー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会を生きていくための基本的な知識を基に、コンピュータを活用する能力を持っている。</li> </ul> <p>(人間を考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動・スポーツの実践を通して、協調することができ、運動文化のルール、マナーを理解している。</li> <li>・健康の保持増進に必要な知識を身につけている。</li> <li>・幅広い教養的知見を生かし、問題を把握し、適切に判断することができる。</li> <li>・自ら問いかけ仮定し、自ら結論を導くことができる。</li> </ul> <p>(言葉とコミュニケーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ以上の外国語を用いて、簡単な表現(口頭・文章)をすることができる。</li> <li>・外国語の学びを通して、日本語の特徴を述べることができる。</li> <li>・他者の意見を聴き、自らの意見と客観的事実に分類することができる。</li> <li>・自律的に学習する姿勢を身に付け、日常に必要な基本的コミュニケーション技能を身につけている。</li> </ul> <p>(歴史と文化を知り、創る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や文化を知り、将来について自分の意見を述べることができる。</li> <li>・世界の多様な文化を寛容に受け入れ、その差違の理由を述べることができる。</li> </ul> <p>(社会の営みを理解する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の問題を把握し、その解決方法を述べることができる。</li> <li>・情報社会に関わるモラルを理解し、正しく判断することができる。</li> </ul> <p>(自然と科学を理解する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の視点から、その在り方と将来について、自分の意見を述べることができる。</li> </ul>
--------	---

別表第2-2 学部・学科の学位授与方針

<p>1. 理工学部</p>	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本及び他国の文化・歴史・社会的背景に関する知識と教養を有している。</li> <li>2. 理工学に関する幅広い基礎知識・技術を有している。</li> <li>3. 各学系の専門分野に関する知識・技術を有している。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 課題の全体を把握し、自分がやるべきこと・できることを割り出し、実行することができる。</li> <li>5. 実験・調査・データ解析を基に問題に対する有効な手段・対策・結論を導き出すことができる。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 自主的・継続的に学習し、技術の研鑽に励むことができる。</li> <li>7. 地球的視点で多面的に捉えることができる。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 様々な意見を持つ仲間とチームのために問題解決に取り組むことができる。</li> </ol> <p>(チームワークスキル)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 技術者倫理を理解し、社会の問題解決のために、技術者として実践、行動することができる。</li> </ol> <p>(奉仕の心)</p> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. 問題発見・解決のために必要な情報を収集し、実験・調査・データ解析に係る計画を立案することができる。</li> <li>11. 実験・調査・データ解析を行い、事実を把握し、自分の意見を論理的に説明することができる。</li> <li>12. 事実を正確に伝える文章を作成し、コミュニケーションをはかることができる。</li> </ol>
<p>2. 人文学部</p>	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化、コミュニケーション、社会、心理、言語、福祉の各分野について、専門的な知識を獲得し体系的に理解する。</li> <li>2. 激しく変容する世界にあつて、広い視野から問題をとらえることのできる人文学的教養を身につける。</li> <li>3. 専門諸分野の具体的な諸課題を分析し対応することができる確かな知識・技術を身につける。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 他者理解や異文化理解を深め、複眼的な視点を持つことができる。</li> <li>5. 人間や社会の問題について、客観的、総合的に思考することができる。</li> <li>6. 専門的な情報や知識を駆使して、問題を発見し論理的に分析することができる。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 人文学の学びを通して学問的な関心を高め、自律的な学習をすすめることができる。</li> <li>8. 人間と社会が抱える諸課題について、主体的かつ実践的にかかわることができる。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 学ぶことを通して、人間の尊厳に対する関心を深めることができる。</li> <li>10. 広く人間と社会の問題に対して学ぶ姿勢を保つことができる。</li> <li>11. 価値観や学問の違いを認めつつ、他者と交流し協調することができる。</li> <li>12. 深い人間理解にもとづいて主体的に活動することができる。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 専門諸分野の知識・技能を使い、創造的かつ具体的に課題に対応できる専門的能力を獲得する。</li> <li>14. 他職種と連携して仕事をすすめることのできる組織力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を獲得する。</li> </ol> <hr/> <p>(1) 国際コミュニケーション学科</p> <p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仕事をするうえで必要となる文書作成・文章読解力を身につけさせる。</li> <li>2. 異文化を理解し、言語・文化的な知見を備えたコミュニケーション能力を身につけさせる。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 目的・場面に応じて、言語・非言語メッセージを適切に使える運用能力を身につけさせる。</li> <li>4. 矛盾や問題点を明らかにする分析能力と、それらに主体的に取り組む実践力を身につけさせる。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 目的意識をもって情報を収集・分析し、それを活用できる能力を身につけさせる。</li> <li>6. 積極的に問題解決にあたり、確実かつ適正にそれを処理できる能力を身につけさせる。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 他者と協調・協働するための円滑なコミュニケーション能力を身につけさせる。</li> <li>8. 遵法精神をもって、組織で問題解決を図れる能力を身につけさせる。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題を解決する応用力を身につけさせる。</li> </ol>

	<p>10. 日本語、中国語、英語の言語システムを理解した、社会的リテラシーを身につけさせる。</p> <p>(2) 人間社会学科 (主体性)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現実の社会的な問題に向き合うことができる。</li> <li>2. 自分の考えを明確にすることができる。 (社会性)</li> <li>3. 自分の考えを他者に伝えることができる。</li> <li>4. 多様な他者と協働して、問題解決にあたることができる。 (柔軟性)</li> <li>5. 多様な他者の存在を理解することができる。 (論理性)</li> <li>6. 社会的事象を、広い視野から論理的に考察することができる。 (分析力)</li> <li>7. 社会調査の技法を理解し、活用することができる。</li> <li>8. 社会的事象を、実証的に分析することができる。 (主体性・社会性・柔軟性・論理性・分析力)</li> <li>9. 不断に自分の人生をデザインすることができる。</li> </ol> <p>(3) 日本文化学科 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本固有の伝統文化についての基本的な知識を身につけている。</li> <li>2. 日本語のしくみについて確かな知識を身につけている。 (思考・判断)</li> <li>3. 日本固有の伝統文化の形成過程について正しく理解し、日本固有の伝統文化の多様性を具体的に述べるすることができる。</li> <li>4. 日本の代表的な作品や文章をみずからの力で正確に読解できる。 (関心・意欲)</li> <li>5. 日本文化だけでなく、外国文化にも強い興味・関心を寄せることができる。 (態度)</li> <li>6. 日本固有の伝統文化を大切にできる。 (技能・表現)</li> <li>7. 日本固有の伝統文化における課題について説明できる。</li> <li>8. 世界の中の日本文化の特徴を説明できる。</li> <li>9. 日本文化と外国文化を具体的に比較し、両者の共通点と相違点を説明できる。</li> <li>10. 海外を含む多様な人とコミュニケーションがとれ、自分の理解や意見を正確に発信できる。</li> </ol> <p>(4) 福祉実践学科 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉に関する制度や政策を理解している。</li> <li>2. 福祉教育ニーズに応えられる地域開発力を身につけている。</li> <li>3. 面接に関する理論と技術を活用できる。</li> <li>4. 地域においてネットワークを構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 (思考・判断)</li> <li>5. 人間福祉に関する幅広い教養を身につけ、その中の専門とする分野に関する深い知識や技能を修得している。</li> <li>6. 自ら福祉の視点から情報を発信することができる。</li> <li>7. ソーシャルワークの方法やスキルを活用できる。 (関心・意欲)</li> <li>8. 社会福祉や介護福祉等の学問を基盤とした専門性を身につけている。</li> <li>9. 社会福祉の各分野及び様々な職業において中核的・指導的な役割を担うことができる能力を持っている。</li> <li>10. 課題を明確に把握し、それを共有させる力を持つ。 (態度)</li> <li>11. 他者と協調・協働するための円滑なコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>12. 問題解決のためにチームで協力することができる能力を持つ。 (技能・表現)</li> <li>13. さまざまな場面において、他者の意見を的確に把握できる。かつ自らの思考や意見を的確に表現するコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>14. ノーマライゼーションを社会に広めていく力を身につけている。</li> </ol>
3. 経済学部	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の基礎知識を修得している。</li> <li>2. 法学・商学・会計学の基礎知識及びビジネスの実践的な知識を修得している。</li> <li>3. 多様な人とコミュニケーションを図るための歴史的・文化的教養を有している。 (思考・判断)</li> <li>4. 経済社会の諸問題に対して、経済学的な視点で分析することができる。</li> </ol>



	<p>5. 経済学の知識とスキルを用いて経済社会の諸問題に対する解決策を提案することができる。</p> <p>6. 経済社会の諸問題を世界的視野で捉えることができる。 (関心・意欲)</p> <p>7. チームにおける自分の役割と任務を認識し、主体的にチームに貢献することができる。 (態度)</p> <p>8. 異なる意見を受け止め、理解することができる。 (技能・表現)</p> <p>9. 経済社会の動向を経済学に必要な数量的手法を用いて説明することができる。</p> <p>10. 文書又は口頭により、自らの考えを論理的かつ正確に伝えることができる。</p> <p>11. 地域の経済社会的課題を解決するために必要な制度上の知識と実践的手法を身に付けている。</p>
4. 情報学部	<p>(知識・理解)</p> <p>1. コンピュータのハードウェアとソフトウェア、及び数学の基礎的知識が身についている。</p> <p>2. ネットワーク、アプリケーションプログラミング、情報処理に関するコンピュータの基礎的知識が身についている。 (思考・判断)</p> <p>3. コンピュータに関わる工学的な課題を論理的に理解し、判断することができる。 (関心・意欲)</p> <p>4. 技術者としての倫理観と専門知識を有し、責務を負うことができる。</p> <p>5. 各分野で利用されているプログラミング言語を用いて、実用的なプログラミングができる。 (態度)</p> <p>6. 自然科学、社会科学、人文科学等の分野において、情報処理技術を幅広く活用することができる。 (技能・表現)</p> <p>7. 様々な課題に対して論理的な思考を簡単な文章で表現することができる。</p> <p>8. 自律的に学習し、日常生活をしていく上で必要な表現力、コミュニケーション力など基本的な技能が身についている。</p> <p>9. 最新の情報知識、技術知識の概要を理解し、その応用方法を簡単な文章で説明することができる。</p> <p>10. 地域を中心とした社会が直面する様々な変化において、諸問題を発見し自律的に解決できる能力を身に付けている。</p>
5. 教育学部	<p>(知識・理解)</p> <p>1. 教育の歴史理解を踏まえ、教育について多様な考え方があることを知り、自らの教育観を形成することができる。</p> <p>2. 学校教育または保育・幼児教育における専門的知識を有している。 (思考・判断)</p> <p>3. 教育指導者としての資質を身に付け、教育現場や関連する領域において応用することができる。</p> <p>4. 教育的関わりにおいて思慮深く創意工夫をすることができる。 (関心・意欲)</p> <p>5. 幼児・児童・生徒を観察し、その人間性を理解しようとする。</p> <p>6. 教育指導者としての技術を教育的関わりに応用しようとする。 (態度)</p> <p>7. 幼児・児童・生徒と適切にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>8. 社会生活を営むうえで他者と適切にコミュニケーションをとることができる。 (技能・表現)</p> <p>9. 議論の場において、他者の意見を理解しつつ自らの意見を的確に表現することができる。</p> <p>10. 学校教育または保育・幼児教育における指導案の作成・教材研究・授業実践をすることができる。</p>
6. 経営学部	<p>(知識・理解)</p> <p>1. 経営の分野における知識と技術を理解する。</p> <p>2. 企業の社会的責任と統治能力を理解する。</p> <p>3. 正しい経営活動を実践する知識を身につける。 (思考・判断)</p> <p>4. 人間関係と組織活動を重んじながら行動することができる。</p> <p>5. 経営学の知識を生かしながらも、硬直的な理論にとらわれず柔軟な行動をとることができる。</p> <p>6. 経営学の知識を用いて論理的に物事を理解することができる。 (関心・意欲)</p> <p>7. 世の中の動きに関心をもち、様々な情報を整理して現状を把握することができる。 (態度)</p> <p>8. 社会人、企業人として生涯自発的に学ぶ能力を身につける。</p> <p>9. 社会人、企業人として地域社会の一員として貢献できる能力を身につける。</p> <p>10. 経営活動が社会に与える影響を理解する。</p>

	<p>11. グループの一員として、同僚と共同して作業を行うことができる。 (技能・表現)</p> <p>12. 身に付けた経営学の知識を生かし、企業活動に役立てることができる。</p> <p>13. 科学的な調査手法や分析手法を用いて論理的に物事を理解することができる。</p>
7. デザイン学部	<p>(基本力)</p> <p>1. デザインに必要な知識を有し、社会やビジネスとの関連の中で考察することができる。</p> <p>2. 社会に対して様々な関心を持ち、自ら参画することができる。</p> <p>3. 困難に対してあきらめず、改善や解決のために工夫と努力を続けることができる。 (企画力)</p> <p>4. 身の周りの生活や社会の問題を分析し、問題点を発見することができる。</p> <p>5. 身の周りの生活や社会の問題を解決する具体的なアイデアを発想することができる。</p> <p>6. 社会に必要な「ヒト・コト・モノ」の新しい可能性を具体的な企画にまとめることができる。 (表現力)</p> <p>7. 企画アイデアを、資料や具体案として美的に構成する表現技術や加工技術を身につけている。</p> <p>8. 自らの考えを資料を用いて、文章及び口頭で明快にプレゼンテーションすることができる。</p> <p>9. 円滑にコミュニケーションをとり、チームを以て協力、協調することができる。</p>
8. 心理学部	<p>(知識・理解)</p> <p>1. 心理学専門職を目指す基礎として、心理学の専門的知識と技能を修得している。 (思考・判断)</p> <p>2. 人間にまつわる諸問題について、科学的かつ多様な視点から考察できる。 (関心・意欲)</p> <p>3. 心理学の専門的知識と技能とを修得するための実習に着実かつ真摯に取り組める。 (態度)</p> <p>4. 研究や対人援助の上での、基本的倫理を修得している。 (技能・表現)</p> <p>5. 仮説検証の論理と実験計画法に従って、データを収集・分析し、結論を導くことができる。</p> <p>6. 実証的な研究論文が作成できる。</p> <p>7. 実証科学の規範に則って、研究成果を公表できる。</p>

### 別表第3-1 全学共通教育の教育課程編成・実施方針

全学共通教育	<p>全学共通教育は、教養教育、初年次教育およびキャリア教育を担っており、そのカリキュラムは、「心と体の健康管理」、「現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本知識と技能の習得」そして「幅広い教養を身につけた自立する市民の育成」の3つの教育目的を柱とした5つの科目群「人間を考える」「言葉とコミュニケーション」「歴史と文化を知り、創る」「社会の営みを理解する」「自然と科学を理解する」をもって編成されている。このカリキュラムは、学生が各分野の知識・技能を得るだけでなく、生きた教養を身につけることによって「自己教育」に目覚め、健康で心豊かな自立した市民となるよう構成されている。</p>
--------	---

### 別表第3-2 学部・学科の教育課程編成・実施方針

1. 理工学部	<p>総合理工学科</p> <p>理工学部は、「学ぶ意欲に火をつける体験学習」と「問題を発見し、解決できる実践力を身につける専門教育」を柱としたカリキュラムを編成する。1年生では理工学部共通の科目として、「プロジェクトⅠ」と「理工実験・実習Ⅰ」を配置し、体験学習を通じて理学と工学の基礎的な素養を修得させる。2年生以降には「学系科目」を配置し、学生が選択した専門領域の基礎から応用までの知識と技術を修得させる。また、4年間を通して配置するプロジェクト科目や実験・演習科目および卒業研究を通じ、コミュニケーション能力、チームワークスキルを養う。</p>
2. 人文学部	<p>(1) 国際コミュニケーション学科</p> <p>留学・フィールドワーク等の体験学習を通じて、英語・中国語を中心とした言語コミュニケーション能力を向上させる。同じく体験学習を通じて、学習したスキルを実践的に活用し、自発的な活動を産み出す企画力、グループ活動に必要な組織運営能力といった非言語的なコミュニケーション能力を身につけさせる。</p> <p>(2) 人間社会学科</p> <p>まず、レポート作成やプレゼンテーション等の基礎的な学習スキルを習得するとともに、社会的な考え方を基礎づけている理論・学説史的背景を学ぶ。そのうえで、ミクロからマクロにいたる多様な切り口から、社会的な事象を論理的かつ複眼的に分析・考察する力を養う。また、社会調査の手法を学び、社会的な事象を実証的に分析する力を身につけさせる。</p>

	<p>(3) 日本文化学科 日本語力の確実な養成を基盤に、外国語および外国文化への目配りを怠らず、歴史・伝統を正しく踏まえつつ日本文化全般についてその本質と特長を実践的に学び、多方面に発信できる人間性を涵養する。</p> <p>(4) 福祉実践学科 1. 社会福祉全体および児童・高齢・障害・地域等の各分野における思想・理念・実践技術を体系的に学ばせる。 2. 工学・マイノリティ・多文化・障害学等のコラボレーション科目を通して、学習の進化と深化を図る。 3. 学内での演習で基礎的な実践力を身につけさせる。 4. 社会福祉や精神保健福祉の現場および福祉系企業での実習や海外研修を通して、福祉職業人・福祉社会人となるにふさわしい応用力を身につけさせる。</p>
3. 経済学部	経済学に加えて法学・商学・会計学の分野を「ビジネスグローバル社会」「金融・会計」「公共政策・法律」の3つのコースに分類して科目を展開する。1年生と2年生に基礎科目を、3年生に発展科目をそれぞれ配置し、各分野の考え方を体系的に教育する。また、1年生から4年生まで少人数のゼミナールを必修とし、主体性・プレゼンテーションスキル・実践的な問題解決能力等を修得させる。さらに、学生が目指す将来に合わせたキャリア科目を設置する。
4. 情報学部	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよび数学にかかわる基礎知識を修得したうえで、コンピュータアーキテクチャの理論と応用を学ぶコンピュータ科学コースと、プログラミングを基礎としてコンピュータの応用技術を学ぶソフトウェア技術コースに分かれ、それぞれの分野で実践的なプログラミング能力を修得し、問題を発見・解決する能力を修得させる。
5. 教育学部	教育学科は「小学校教員コース」「教科専門コース」「特別支援教員コース」「子ども臨床コース」の4コースを設置し、教員または保育者養成を主目的とする教育課程を編成する。少人数クラスによる「教育学基礎演習」(1年生)、「教育実践ゼミ」(3・4年生)では、教育の諸問題に関する意見交換や考察を通して、教育への幅広い視野を育てる。「教育インターンシップ」(2年生)では、教育の現場において、教員としての視点と実践力を養う。これらの必修科目を柱に、教育に対する深い理解と実践力を身につけさせる。
6. 経営学部	経営学部の基礎理論をもとに、起業教育を軸にした実践的な体験学習の機会を多く設け、「多摩ブランド創生」「観光・ブライダル」「事業承継・起業」「金融・会計プロフェッション」「高度実務人材育成」の各コースで体験的に学習する。併せて、「キャリア開発」分野を並行して学ぶことで、高い教養と経営に関する専門知識と技能を持ち、企業経営に関する問題発見と解決能力を身につけさせる。
7. デザイン学部	デザインを「企画×表現」と捉え、今日の社会やデザインの現場で本当に求められる力を総合的かつ実践的に育てる。1年生からモノづくりの基礎知識や基本技術を学び、2年生から「視覚デザインコース」、「生活デザインコース」の計6分野を複数選択しながら、様々なデザイン分野での応用力を養う。こうした知識や技術を1年生から4年生前期まで7半期にわたる必修の「企画表現演習」でさらに発展的に応用し、企画力(分析力、発想力、統合力)と表現力(美的構成力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力)を総合的に身につけさせる。
8. 心理学部	学位授与方針の達成のために、1・2年生では基礎科目と幅広い基幹科目とを、そして、3・4年生ではより専門的な発展科目と卒業研究のための研究実践科目(専門演習)とを配置している。特に、2年生で開講され少人数制で実施される心理学実験法や心理学検査法では、学生1人1人に対して教員が丁寧な指導を行うことによって、3・4年生での研究実践科目における専門的学修の最終成果である、科学的・実証的な卒業研究の完成を担保する。 また、このカリキュラムは、「心理学の専門的な仕事をするために必要な基礎学力と技能とを修得している」ことを保証する公益社団法人日本心理学会の「認定心理士」資格、ならびに、その上位資格である「認定心理士(心理調査)」資格を満たすものである。 さらに、実際の臨床の場における実践能力の修得を目的とする臨床実践科目を設けるほか、心理学部での学びが社会貢献に円滑に結びつくように、学科科目としてキャリア形成科目も設置する。

#### 別表第4-1 明星大学の入学者受け入れ方針

明星大学は、本学の教育目標である「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を理解するとともに、各学部の教育研究上の目的を理解し、向上心を持って主体的に学ぶ人を受け入れます。

別表第4-2 学部・学科の入学者受け入れ方針

<p>1. 理工学部</p>	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理工学を学ぶ上で必要となる数学及び理科の基礎学力を有している人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 授業における討論や実験・実習に、自ら積極的に関わろうとする人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. チャレンジ精神を持ち、課題解決のための地道な努力を続けることができる人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 他人の身になって考え、人と協調的な関係を築こうとする意志がある人。</li> <li>5. 自らが修得した専門知識・技術を活かし、人や社会に貢献したいという意欲がある人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 社会の出来事から問題・課題を見つけ、情報収集し、自分の言葉でまとめることができる人。</li> </ol>
<p>2. 人文学部</p>	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学での修学に必要な基礎学力や基本的な社会知識を有している人。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語について高等学校卒業相当の知識を有し、「人」との関わりの大切さを理解している人。</li> </ul> </li> <li>2. それぞれの学科のカリキュラムで学ぶことのできる基本的内容を理解している人。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の人材養成の目的を理解し、各学科の学ぶカリキュラムと自らの将来像を関連させて理解できる人。</li> </ul> </li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 豊かな感性を持ち、物事を多面的かつ論理的にとらえ考察できる人。</li> <li>4. 幅広い視野を持ち冷静な判断ができる人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 多様な考え方や分野領域に関心を持ち、自律的に学ぶことのできる人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解を深める努力ができる人。</li> <li>7. 学んだ専門知識や技術を「人」や「社会」で活かすための努力ができる人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 自己の考えを的確に表現し、わかりやすく他者に伝えることができる人。</li> </ol> <hr/> <p>(1) 国際コミュニケーション学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会で使える基礎的なコミュニケーション能力を持っている人。</li> <li>2. 学科の教育理念および人材育成の方針に適合した将来像を持っている人。</li> <li>3. 留学やグループワークなどの体験学習を通して、社会的な実践力を伸ばせる人。</li> <li>4. 自分の考えや行動に責任を持ち、しっかり自己管理ができる人。</li> </ol> <hr/> <p>(2) 人間社会学科</p> <p>(主体性)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現実の社会的な問題に関心をもつ人。</li> <li>2. 自分の考えをもちたいと考えている人。</li> </ol> <p>(社会性)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 自分の考えを他者に伝えることに関心をもつ人。</li> <li>4. 他者と協働して問題に取り組みたいと考えている人。</li> </ol> <p>(柔軟性)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 多様な他者に関心をもつ人。</li> </ol> <p>(論理性)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 物事について論理的に考えようとする人。</li> </ol> <p>(分析力)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 社会調査の方法に関心をもつ人。</li> <li>8. 社会的事象を分析してみたいと考える人。</li> </ol> <p>(主体性・社会性・柔軟性・論理性・分析力)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 人生について真摯に考えようとする人。</li> </ol> <hr/> <p>(3) 日本文化学科</p> <p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の言語や文学、歴史、芸術についての基本的な知識を有している人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. ものごとを多面的かつ論理的に考察することができる人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 国内外を問わず、文学や言語、芸術等の様々な社会的文化現象に興味がある人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる人。</li> </ol>

	<p>(4) 福祉実践学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション能力を有し、グループで協働する能力を持つ人。</li> <li>2. 社会的問題を考察し、それを口頭及び文章で表現することができる人。</li> <li>3. 大学での修学に必要な基礎学力や社会常識を有している人。</li> <li>4. 情報検索、生活技術の能力を伸ばせる人。</li> </ol>
3. 経済学部	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校の主要教科について基礎的な知識を身に付けている人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 問題を解決するための方法を自ら考えることができる人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 経済社会の諸問題に関心を持っている人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 勉学に励む意志を有している人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 知識と情報を整理・検討し、それらを適切に文章にまとめることができる人。</li> </ol>
4. 情報学部	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての国語、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識を有している人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. コンピュータに関わる専門家、技術者を目指し、「積極的」かつ「自発的」な学習研究意欲のある人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 課題や問題の解決に向けて「論理的思考」と「柔軟な思考」ができる人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 自然科学、社会科学、人文科学等にかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献しようとする人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 自分の考えを表現して他者と適切にコミュニケーションをとり、協調しながら主体的に問題に取り組むことができる人。</li> </ol>
5. 教育学部	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育または保育・幼児教育を学習する基礎的な学力や理解能力を有している人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 教育や関連する領域において適切に思考・判断する基礎的な資質・能力を有している人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 保育や教育に関心をもち、その分野の仕事をしたという意欲を有している人。</li> </ol> <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 多様な人々と適切にコミュニケーションをとることができ、真摯に学習する態度を有している人。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 教育活動をするうえで必要な技能・表現についての基礎的な資質・能力を有している人。</li> </ol>
6. 経営学部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の活性化や地域住民の生活満足の向上に意欲のある人。</li> <li>2. 観光をはじめ、ホスピタリティ、ブライダルビジネスなどサービス業に興味、関心のある人。</li> <li>3. 起業や新規事業の立ち上げ、企業の事業承継について必要な知識を学ぶ意欲のある人。</li> <li>4. 会計や財務の知識を身につけて金融機関や会計のプロフェッショナルを目指す意欲のある人。</li> <li>5. 経営学の学習と実践を通じて実務家としての基本能力を高め、民間企業および官公庁の即戦力として活躍できる人材を目指す意欲のある人。</li> </ol>
7. デザイン学部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画や表現をしていく上で必要な、基礎学力を有している人。</li> <li>2. 生活や社会について興味・関心が強く、積極的に関わりたいと思っている人。</li> <li>3. 少し位の困難があっても、粘り強く努力することができる人。</li> <li>4. 分からないことをそのままにせず、自分で調べてみるのが好きな人。</li> <li>5. 新しいアイデアを考えるのが好きな人。</li> <li>6. ものごとを筋道立てて考えるのが好きな人。</li> <li>7. 資料や図、模型などを作るのが好きな人。</li> <li>8. 自分の考えを言葉や文章で表現することが好きな人。</li> <li>9. 人と接するのが好きで、相手の話を注意深く聞くことができる人。</li> </ol>
8. 心理学部	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語、英語、数学の基礎学力を備えている人。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 「私」や自己の内面としての「心」にだけでなく、人間同士や人間と環境との関わりとしての「心」にも眼を向けられる、幅広い視野を持つ人。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 心理学の専門科目の授業に、常に真剣に取り組める人。</li> <li>4. 心理学の特定の一領域にだけでなく、多様な領域や考え方に関心を持って幅広く学びたいと考</li> </ol>

	える人。 (態度) 5. 友人や教員と協調して、自ら目標を定め計画的に学びを深めて行ける人。 (技能・表現) 6. 「文系」や「理系」の枠にとらわれず、実験、検査、調査、統計処理、外国語文献読解など、 人間を理解するための様々なスキル修得に意欲的に取り組める人。
--	--

別表第5 各学部学科の進級基準

学部学科		進級時期	進級基準		
			在学期間	修得単位数※1	指定科目
理工学部	総合理工学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	55	
		3年生から4年生	3年以上	90	
人文学部	国際コミュニケーション学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	基礎研究、自立と体験2
		3年生から4年生	3年以上	88	
	人間社会学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	社会学への招待A、社会学への招待B、社会学研究1A、社会学研究1B
		3年生から4年生	3年以上	88	社会学研究2A、社会学研究2B
	日本文化学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	自立と体験2
		3年生から4年生	3年以上	88	
	福祉実践学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	自立と体験2、現代社会と福祉I、福祉専門職論I
		3年生から4年生	3年以上	88	専門演習IA、専門演習IB
経済学部	経済学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	44	
		3年生から4年生	3年以上	88	
情報学部	情報学科	1年生から2年生	1年以上	20	情報学基礎
		2年生から3年生	2年以上	50	1年生又は2年生配当の学科必修科目(※2)34単位のうち18単位以上を含むこと。
		3年生から4年生	3年以上	93	1年生及び2年生配当の学科必修科目(※2)34単位を含むこと。
教育学部	教育学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	-	-	
		3年生から4年生	3年以上	90	
経営学部	経営学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	44	
		3年生から4年生	3年以上	88	
デザイン学部	デザイン学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	45	企画表現演習1、企画表現演習2
		3年生から4年生	3年以上	80	企画表現演習3、企画表現演習4
心理学部	心理学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	50	心理学概論A、心理学概論B、心理統計法1、心理学統計法2、心理学研究法
		3年生から4年生	3年以上	88	心理学実験法、心理学実験法実習、心理学検査法、心理学検査法実習

※1 科目区分毎に上限を設け、その履修方法は「履修の手引」に定める。

※2 学科必修科目の配当学年は「履修の手引」に定める。

別表第6-1 卒業の要件 全学

科目区分※1		必選区分	卒業に必要な単位数													合計			
			各学部学科の単位数																
			理工学部						人文学部				経済学部	情報学部	教育学部		経営学部	デザイン学部	心理学部
			総合理工学科						国際コミュニケーション学科	人間社会学科	日本文化学科	福祉実践学科	経済学科	情報学科	教育学科		経営学科	デザイン学科	心理学部
物理学系	生命科学・化学系	機械工学系	電気電子工学系	建築学系	環境科学系														
全学共通科目	自立と体験	必修	2													32 (必修23 選択9)			
	特別講義	選択※2	※3																
	人間を考える	必修	3																
		選択※2	※3																
	言葉とコミュニケーション	必修 ※4 ※5 ※6	12																
		選択※2	※3																
	歴史と文化を知り、創る	必修※7	2																
		選択※2	※3																
	社会の営みを理解する	必修	2																
		選択※2	※3																
自然と科学を理解する	必修	2																	
	選択※2	※3																	
学共部 共通科目 (学 科 目)	必修	16				18	-				-	-	-	-	-	-	-		
	選択 ※8 ※9	上限12まで				上限 10 まで	上限 30 まで	上限 26 まで	上限30 まで	-	-	-	-	-	-	-	-		
学 科 科 目	必修	8						36	32	32	27	20	50	27	30	36	32		
	選択必修	24	36		6	30	25	-	12 以上	-	-	4 以上	-	-	-	10 以上	20 以上		
	選択必修	-	-	-	-	-	-	-	22 以上	-	-	-	-	-	-	6 以上	40 以上		
	選択必修	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14 以上	-		
	選択必修	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14 以上	-		
	選択必修	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6 以上	-		
	選択 ※10 ※11	32 以上	20 以上		50 以上	26 以上	31 以上	26 以上	上限 4 まで	30 以上	35 以上	上限 66 まで	42 以上	65 以上	54 以上	上限 20 まで	-		
キャリア 選択科目	-	-		-	-	-	-	-	-	-	2 以上	-	-	-	-	-			

※1 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※2 全学共通科目選択科目の9単位内に、理工学部は全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。人文学部は、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができ、この場合における「教職に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教職に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。経済学部は、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を9単位まで含むことができる。情報学部は、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。教育学部は、学科科目で92単位を超えて修得した単位のうち、9単位まで含むことができる。

- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※5 a. 理工学部、経済学部、情報学部、教育学部、経営学部、デザイン学部は外国語（英語）が必修。  
b. 人文学部、心理学部は、外国語（英語）・外国語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※6 a. 外国人留学生は、日本語が必修。  
b. 原則として母国語の単位は認定しない。
- ※7 外国人留学生は、日本事情1、日本事情2が必修。
- ※8 人文学部は、学部共通科目選択科目は上限30単位（人間社会学科は26単位）まで卒業要件として認められるが、この上限単位数の範囲内で、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を26単位まで含むことができる。この場合における「教科に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教科に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※9 所属する学科の学科科目は学部共通科目として算入しない。
- ※10 学科科目選択科目に、理工学部は、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を4単位まで含むことができる。経済学部は、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。情報学部は、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。
- ※11 学科科目選択科目に、人文学部国際コミュニケーション学科、デザイン学部デザイン学科は、全学共通社会的・職業的自立促進科目の自立と体験3・自立と体験4の4単位まで含むことができる。
- ※12 キャリア選択科目に、経済学部経済学科は、全学共通社会的・職業的自立促進科目の自立と体験3・自立と体験4の4単位まで含むことができる。

## 別表第6-2 卒業の要件 理工学部

### (1) 総合理工学科 物理学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			理工学部	合計
			総合理工学科 物理学系	
自立と体験	必修	自立と体験1	2	32 (必修23 選択9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
	選択※1	健康・スポーツ演習1	1	
言葉とコミュニケーション	必修 ※4	外国語（英語）1A	1	
		外国語（英語）1B	1	
		外国語（英語）2A	1	
		外国語（英語）2B	1	
		外国語（英語）3A	1	
		外国語（英語）3B	1	
		外国語（英語）4A	1	
		外国語（英語）4B	1	
		情報リテラシーa	2	
		情報リテラシーb	2	
	選択※1	※2	※3	
歴史と文化を知り、創る	必修		2	
	選択※1	※2	※3	
社会の営みを理解する	必修		2	
	選択※1	※2	※3	
自然と科学を理解する	必修		2	
	選択※1	※2	※3	
学科共通科目	必修	基礎代数学Ⅰ	2	16 上限28 まで
		基礎解析学Ⅰ	2	
		プロジェクトⅠ	1	
		プロジェクトⅡ	1	
		プロジェクトⅢ	1	
		プロジェクトⅣ	1	
		プロジェクトⅤ	1	
プロジェクトⅥ	1			



学科科目		理工実験実習 I	2	64 以上	
		理工実験実習 II	2		
		自立と体験 2	2		
	選択	※2	上限 12 まで		
	必修	卒業研究	8		
	選択必修		基礎力学 I		2
			基礎力学 II		2
			基礎電磁気学 I		2
			基礎電磁気学 II		2
			解析力学 I		2
			解析力学 II		2
			電磁気学 I		2
			電磁気学 II		2
		量子力学 I	2		
		量子力学 II	2		
	統計熱力学 I	2			
	統計熱力学 II	2			
選択※5	※2	32 以上			

※1 全学共通科目選択科目の 9 単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を 4 単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して 9 単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1 回の研修につき 2 単位）に替えることができる。ただし、その上限は 1 カ国語 4 単位とする。

※5 学科科目選択科目の 32 単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を 4 単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を 4 単位まで含むことができる。

(2) 総合理工学科 生命科学・化学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数		合計	
			理工学部			
			総合理工学科			
			生命科学・化学系			
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)	
	特別講義	選択※1	※2	※3		
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2		※3
			健康・スポーツ演習 1	1		
	言葉とコミュニケーション	必修 ※4	※2	※3		32 (必修 23 選択 9)
			外国語 (英語) 1A	1		
			外国語 (英語) 1B	1		
			外国語 (英語) 2A	1		
			外国語 (英語) 2B	1		
			外国語 (英語) 3A	1		
			外国語 (英語) 3B	1		
			外国語 (英語) 4A	1		
			外国語 (英語) 4B	1		
			情報リテラシー-a	2		
	情報リテラシー-b	2				
		選択※1	※2	※3		
	歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2		※3
			※2	2		
	社会の営みを理解する	必修	※2	2		※3
			※2	2		
自然と科学を理解する	必修	※2	2	※3		
		※2	2			
学科共通科目	必修	基礎代数学 I	2	16 上限 28 まで		
		基礎解析学 I	2			
		プロジェクト I	1			
		プロジェクト II	1			

学 科 科 目		プロジェクトⅢ	1	64 以上	
		プロジェクトⅣ	1		
		プロジェクトⅤ	1		
		プロジェクトⅥ	1		
		理工実験実習Ⅰ	2		
		理工実験実習Ⅱ	2		
		自立と体験2	2		
	選択	※2	上限12まで		
	必修	卒業研究	8		
	選択必修		基礎物理化学		2
			基礎無機化学		2
			基礎分析化学		2
			基礎有機化学		2
			物理化学Ⅰ		2
			分析化学Ⅰ		2
			有機化学Ⅰ		2
		無機化学Ⅰ	2		
		生化学Ⅰ	2		
		細胞生物学	2		
		分子生物学Ⅰ	2		
		化学・生命科学実験Ⅰ	3		
		化学・生命科学実験Ⅱ	3		
		ナノ・バイオテクノロジー	2		
	化学・生命科学実験Ⅲ	3			
	化学・生命科学実験Ⅳ	3			
選択※5	※2	20以上			

※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

※5 学科科目選択科目の20単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を4単位まで含むことができる。

### (3) 総合理工学科 機械工学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			理工学部 総合理工学科 機械工学系	合計
自立と体験	必修	自立と体験1	2	32 (必修23 選択9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
	選択※1	健康・スポーツ演習1	1	
言葉とコミュニケーション	必修 ※4	外国語(英語)1A	1	
		外国語(英語)1B	1	
		外国語(英語)2A	1	
		外国語(英語)2B	1	
		外国語(英語)3A	1	
		外国語(英語)3B	1	
		外国語(英語)4A	1	
		外国語(英語)4B	1	
		情報リテラシーa	2	
		情報リテラシーb	2	
	選択※1	※2	※3	
歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2	
	選択※1	※2	※3	

	社会の営みを理解する	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
	自然と科学を理解する	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
学科共通科目	必修	基礎代数学Ⅰ		2	16	上限28まで
		基礎解析学Ⅰ		2		
		プロジェクトⅠ		1		
		プロジェクトⅡ		1		
		プロジェクトⅢ		1		
		プロジェクトⅣ		1		
		プロジェクトⅤ		1		
		プロジェクトⅥ		1		
		理工実験実習Ⅰ		2		
		理工実験実習Ⅱ		2		
		自立と体験2		2		
	選択	※2	上限12まで			
学科科目	必修	卒業研究		8	36	64以上
		ものづくりⅠ		2		
	ものづくりⅡ		2			
	機械工学系基礎実験Ⅰ		2			
	機械工学系基礎実験Ⅱ		2			
	熱力学Ⅰ		2			
	熱力学Ⅱ		2			
	材料の強さⅠ		2			
	材料の強さⅡ		2			
	流れ学Ⅰ		2			
	流れ学Ⅱ		2			
	機械力学Ⅰ		2			
	機械力学Ⅱ		2			
	機械製図		2			
	機械加工学Ⅰ		2			
	3D-CAD		2			
	機械工学系実験Ⅰ		2			
	機械工学系実験Ⅱ		2			
	機械設計製図Ⅰ		2			
		選択※5	※2	20以上		

※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

※5 学科科目選択科目の20単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を4単位まで含むことができる。

#### (4) 総合理工学科 電気電子工学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			理工学部	合計
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験1	2
	特別講義	選択※1	※2	※3
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2
		選択※1	健康・スポーツ演習1	1
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修	※2	※3
		※4	外国語（英語）1A	1
			外国語（英語）1B	1
			外国語（英語）2A	1
			外国語（英語）2B	1
			外国語（英語）3A	1
	外国語（英語）3B	1		

			外国語（英語）4A	1					
			外国語（英語）4B	1					
			情報リテラシーa	2					
			情報リテラシーb	2					
			選択※1	※2				※3	
			歴史と文化を知り、創る	必修				※2	2
				選択※1				※2	※3
			社会の営みを理解する	必修				※2	2
				選択※1				※2	※3
			自然と科学を理解する	必修				※2	2
				選択※1				※2	※3
			学科共通科目	必修				基礎代数学Ⅰ	2
基礎解析学Ⅰ	2								
プロジェクトⅠ	1								
プロジェクトⅡ	1								
プロジェクトⅢ	1								
プロジェクトⅣ	1								
プロジェクトⅤ	1								
プロジェクトⅥ	1								
理工実験実習Ⅰ	2								
理工実験実習Ⅱ	2								
自立と体験2	2								
選択	※2	上限12まで							
学科科目	必修	卒業研究	8	64以上					
	選択必修	電気電子実験	2				6		
		情報通信実験	2						
		電力電子実験	2						
	選択※5	※2	50以上						

※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

※5 学科科目選択科目の50単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を4単位まで含むことができる。

#### (5) 総合理工学科 建築学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			理工学部	合計
			総合理工学科	
			建築学系	
自立と体験	必修	自立と体験1	2	32 (必修23 選択9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
	選択※1	健康・スポーツ演習1	1	
言葉とコミュニケーション	必修 ※4	外国語（英語）1A	1	
		外国語（英語）1B	1	
		外国語（英語）2A	1	
		外国語（英語）2B	1	
		外国語（英語）3A	1	
		外国語（英語）3B	1	
		外国語（英語）4A	1	
		外国語（英語）4B	1	
		情報リテラシーa	2	
		情報リテラシーb	2	
		選択※1	※2	
歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2	
	選択※1	※2	※3	

	社会の営みを理解する	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
	自然と科学を理解する	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
学科共通科目	必修	基礎代数学 I		2	16	上限 28 まで
		基礎解析学 I		2		
		プロジェクト I		1		
		プロジェクト II		1		
		プロジェクト III		1		
		プロジェクト IV		1		
		プロジェクト V		1		
		プロジェクト VI		1		
		理工実験実習 I		2		
		理工実験実習 II		2		
		自立と体験 2		2		
学科科目	選択	※2		上限 12 まで	30	64 以上
	必修	卒業研究		8		
	選択必修	意匠・デッサン実習		2		
		住宅論		2		
		建築設計製図 I		2		
		建築設計製図 II		2		
		建築計画 I		2		
		日本建築史		2		
		西洋建築史		2		
		建築環境学 I		2		
		建築設備 I		2		
		建築構造力学		2		
		建築材料学		2		
		建築構造解析		2		
		建築施工管理		2		
		建築法規		2		
建築構法		2				
選択※5	※2		26 以上			

※1 全学共通科目選択科目の 9 単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を 4 単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して 9 単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1 回の研修につき 2 単位）に替えることができる。ただし、その上限は 1 カ国語 4 単位とする。

※5 学科科目選択科目の 26 単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を 4 単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を 4 単位まで含むことができる。

#### (6) 総合理工学科 環境科学系

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数		
			理工学部 総合理工学科 環境科学系	合計	
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)
	特別講義	選択※1	※2	※3	
	カリキュラムコア 人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
		選択※1	健康・スポーツ演習 1	1	
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※4	外国語（英語）1A	1	
			外国語（英語）1B	1	
			外国語（英語）2A	1	
			外国語（英語）2B	1	
			外国語（英語）3A	1	

			外国語（英語）3B	1	92	
			外国語（英語）4A	1		
			外国語（英語）4B	1		
			情報リテラシーa	2		
			情報リテラシーb	2		
		選択※1	※2	※3		
		歴史と文化を知り、創る	必修	※2		2
			選択※1	※2		※3
		社会の営みを理解する	必修	※2		2
			選択※1	※2		※3
自然と科学を理解する	必修	※2	2			
	選択※1	※2	※3			
学科 共通科目	必修	基礎代数学Ⅰ	2	18	上限 28 まで	
		基礎解析学Ⅰ	2			
		プロジェクトⅠ	1			
		プロジェクトⅡ	1			
		プロジェクトⅢ	1			
		プロジェクトⅣ	1			
		プロジェクトⅤ	1			
		プロジェクトⅥ	1			
		理工実験実習Ⅰ	2			
		理工実験実習Ⅱ	2			
		自立と体験 2	2			
		技術者の生き方と安全管理	2			
		選択	※2			上限 10 まで
学科 科目	必修	卒業研究	8	25	64 以上	
		環境基礎ゼミ	1			
	基礎環境学Ⅰ	2				
	基礎環境学Ⅱ	2				
	基礎環境化学	2				
	都市環境計画	2				
	気象・熱環境学	2				
	環境微生物学	2				
	水・土壌環境学	2				
	廃棄物学	2				
	大気環境学	2				
	環境情報処理	2				
	環境アセスメント	2				
	環境総合科学	2				
	選択※5	※2	31 以上			

※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

※5 学科科目選択科目の33単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。また、他学系の学科科目を4単位まで含むことができる。

### 別表第6-3 卒業の要件 人文学部

#### (1) 国際コミュニケーション学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数		
			人文学部	合計	
			国際コミュニケーション学科		
全学 共通 科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)
	特別講義	選択※1	※2	※3	
	ラキ ムコ 人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
			健康・スポーツ演習 1	1	

	選択※1	※2	※3			
言葉とコミュニケーション	必修 ※4 ※5	外国語 1A	1			
		外国語 1B	1			
		外国語 2A	1			
		外国語 2B	1			
		外国語 3A	1			
		外国語 3B	1			
		外国語 4A	1			
		外国語 4B	1			
		情報リテラシーa	2			
		情報リテラシーb	2			
		選択※1	※2	※3		
歴史と文化を知り、創る	必修		2			
	選択※1	※2	※3			
社会の営みを理解する	必修		2			
	選択※1	※2	※3			
自然と科学を理解する	必修		2			
	選択※1	※2	※3			
学部共通科目		選択※6	※2	上限 30 まで		
学科科目	必修	自立と体験 2	2	36	62 以上	92
		基礎研究	2			
		コミュニケーション外国語 I a	1			
		コミュニケーション外国語 I b	1			
		コミュニケーション外国語 I c	1			
		コミュニケーション外国語 I d	1			
		コミュニケーション外国語 I e	1			
		コミュニケーション外国語 I f	1			
		専門基礎研究 I	2			
		専門基礎研究 II	2			
		コミュニケーション外国語 II a	1			
		コミュニケーション外国語 II b	1			
		コミュニケーション外国語 II c	1			
		コミュニケーション外国語 II d	1			
		コミュニケーション外国語 II e	1			
		コミュニケーション外国語 II f	1			
		専門研究 1	2			
		専門研究 2	2			
		専門研究 3	2			
		専門研究 4	2			
卒業研究	8					
選択	※2	26 以上	※7			

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。この場合における「教職に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教職に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 外国語科目は、外国語（英語）・外国語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※5 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※6 学部共通科目は上限30単位まで卒業要件として認められるが、この上限単位数の範囲内で、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を26単位まで含むことができる。この場合における「教科に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教科に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※7 学科科目選択科目の26単位内に、全学共通社会的・自立的促進科目の自立と体験3・自立と体験4の4単位まで含むことができる。

(2) 人間社会学科

科目区分		必選区分	科目名	卒業に必要な単位数				
				人文学部		合計		
				人間社会学科				
全学 共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2		32 (必修 23 選択 9)		
	特別講義	選択※1	※2	※3				
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2				
		選択※1	健康・スポーツ演習 1	1				
	言葉とコミュニケーション	必修 ※4 ※5	外国語 1A	1				
			外国語 1B	1				
			外国語 2A	1				
			外国語 2B	1				
			外国語 3A	1				
			外国語 3B	1				
			外国語 4A	1				
			外国語 4B	1				
			情報リテラシーa	2				
			情報リテラシーb	2				
			選択※1	※2	※3			
	歴史と文化を知り、創る	必修		2				
		選択※1	※2	※3				
	社会の営みを理解する	必修		2				
		選択※1	※2	※3				
	自然と科学を理解する	必修		2				
		選択※1	※2	※3				
	学部共通科目		選択※6	※2	上限 26 まで		92	
	学 科 目	必修	レポート作成とプレゼンテーション	2	32			66 以上
自立と体験 2			2					
社会学への招待 A			2					
社会学への招待 B			2					
社会学研究 1A			2					
社会学研究 1B			2					
社会学原論 A			2					
社会学原論 B			2					
社会調査法 A			2					
社会調査法 B			2					
社会学研究 2A			2					
社会学研究 2B			2					
卒業研究			8					
選択必修			アイデンティティの社会学	2		12 以上		
		家族社会学	2					
		教育社会学	2					
		地域社会学	2					
		産業社会学	2					
		環境社会学	2					
		グローバル化の社会学	2					
		階級・階層論	2					
		情報社会学	2					
		社会保障論	2					
		文化の社会学	2					
		逸脱行動の社会学	2					
		現代社会学理論 A	2					
		現代社会学理論 B	2					
選択必修		マイノリティの社会学	2	22 以上				
		ライフコース論	2					
		ワーク・ライフ・バランスの社会学	2					
		ジェンダー論	2					
		学校社会学	2					



	世代の社会学	2	
	コミュニティ形成論	2	
	市民活動論	2	
	仕事の社会学	2	
	経済社会学	2	
	社会紛争論	2	
	科学技術社会論	2	
	多文化社会論	2	
	アジア社会論	2	
	格差社会論	2	
	リスク社会論	2	
	地域情報論	2	
	社会イノベーション論	2	
	セーフティネット論	2	
	福祉社会学	2	
	メディアとコミュニケーションの社会学	2	
	宗教社会学	2	
	犯罪と非行の社会学	2	
	権力と支配の社会学	2	
	データ理解の基礎	2	
	統計学の基礎	2	
	量的データ分析	2	
	質的データ分析	2	
	社会調査実習	2	
選択	※2		上限4まで

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。この場合における「教職に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教職に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 外国語科目は、外国語（英語）・外国語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※5 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※6 学部共通科目は上限26単位まで卒業要件として認められるが、この上限単位数の範囲内で、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を26単位まで含むことができる。この場合における「教科に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教科に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。

### (3) 日本文化学科

科目区分	必修区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			人文学部	合計
			日本文化学科	
自立と体験	必修	自立と体験1	2	32 (必修23 選択9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
		健康・スポーツ演習1	1	
	選択※1	※2	※3	
		外国語1A	1	
言葉とコミュニケーション	必修 ※4 ※5	外国語1B	1	
		外国語2A	1	
		外国語2B	1	
		外国語3A	1	
		外国語3B	1	
		外国語4A	1	
		外国語4B	1	
		情報リテラシーa	2	
		情報リテラシーb	2	
		選択※1	※2	※3

	歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
	社会の営みを理解する	必修	※2	2		
選択※1		※3				
	自然と科学を理解する	必修	※2	2		
		選択※1		※3		
学部共通科目		選択※6	※2	上限 30 まで		92
学科科目	必修	自立と体験 2	2	32	62 以上	
		日本語 レベルアップ 1	1			
		日本語 レベルアップ 2	1			
		伝統文化論 1	2			
		伝統文化論 2	2			
		比較文化論 1	2			
		比較文化論 2	2			
		身体表現文化 1	2			
		日本文化基礎演習 1	1			
		日本文化基礎演習 2	1			
		比較文化基礎演習 1	1			
		比較文化基礎演習 2	1			
		日本文化演習 1	1			
		日本文化演習 2	1			
		比較文化演習 1	1			
		比較文化演習 2	1			
		卒研演習 1	1			
		卒研演習 2	1			
卒業研究	8					
選択	※2	30 以上				

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。この場合における「教職に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教職に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 外国語科目は、外国語（英語）・外国語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※5 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※6 学部共通科目は上限30単位まで卒業要件として認められるが、この上限単位数の範囲内で、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を26単位まで含むことができる。この場合における「教科に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教科に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。

#### (4) 福祉実践学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			人文学部	合計
			福祉実践学科	
自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)
	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
	健康・スポーツ演習 1	1		
選択※1	※2	※3	※3	
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※4 ※5	外国語 1A	
外国語 1B			1	
外国語 2A			1	
外国語 2B			1	
外国語 3A			1	
外国語 3B			1	
外国語 4A			1	
外国語 4B			1	
情報リテラシーa			2	
情報リテラシーb			2	

		選択※1	※2	※3			
	歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2			
		選択※1	※2	※3			
	社会の営みを理解する	必修	※2	2			
		選択※1	※2	※3			
	自然と科学を理解する	必修	※2	2			
		選択※1	※2	※3			
学部共通科目		選択※6	※2	上限 30 まで			
学科科目	必修	自立と体験 2		2	27	62 以上	92
		現代社会と福祉 I		2			
		福祉専門職論 I		2			
		相談援助論 I A		2			
		相談援助論 I B		2			
		相談援助演習 I		1			
		相談援助演習 II		1			
		相談援助演習 III		1			
		相談援助演習 IV		1			
		相談援助演習 V		1			
		専門演習 I A		1			
		専門演習 I B		1			
		専門演習 II A		1			
		専門演習 II B		1			
		卒業研究		8			
	選択※7	※2	35 以上				

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。この場合における「教職に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教職に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 外国語科目は、外国語（英語）、外国語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※5 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※6 学部共通科目は上限30単位まで卒業要件として認められるが、この上限単位数の範囲内で、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を26単位まで含むことができる。この場合における「教科に関する科目」は、通信教育部の併修制度にて修得した「教科に関する科目」の単位であっても良いが、諸条件については別に定める。
- ※7 学科科目選択科目の履修方法は、「履修の手引」に定める。

別表第6-4 卒業の要件 経済学部

(1) 経済学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数			
			経済学部	合計		
			経済学科			
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)	
	特別講義	選択※1	※2	※3		
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2		
			健康・スポーツ演習 1	1		
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※4	※2	※3		
			外国語（英語）1A	1		
			外国語（英語）1B	1		
			外国語（英語）2A	1		
			外国語（英語）2B	1		
			外国語（英語）3A	1		
			外国語（英語）3B	1		
			外国語（英語）4A	1		
			外国語（英語）4B	1		

			情報リテラシーa	2					
			情報リテラシーb	2					
			選択※1	※2				※3	
			歴史と文化を知り、創る	必修				※2	2
				選択※1					※3
			社会の営みを理解する	必修				※2	2
				選択※1					※3
			自然と科学を理解する	必修				※2	2
				選択※1					※3
			学科科目	必修				基礎演習 1a	1
基礎演習 1b	1								
経済学入門 1	2								
経済学入門 2	2								
自立と体験 2	2								
専門演習 1a	1								
専門演習 1b	1								
専門演習 2a	1								
専門演習 2b	1								
卒業研究	8								
選択必修	ミクロ経済学 1※5	2		4以上					
	ミクロ経済学 2※5	2							
	マクロ経済学 1※5	2							
	マクロ経済学 2※5	2							
選択※6	※2	上限 66 まで							
キャリア選択科目	※2	2 以上※7							

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を9単位まで含むことができる。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。
- ※5 選択必修科目は「ミクロ経済学1」及び「ミクロ経済学2」又は「マクロ経済学1」及び「マクロ経済学2」を一括して履修しなければ、卒業に必要な選択必修科目の単位を取得できない。
- ※6 学科科目選択科目の66単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を8単位まで含むことができる。
- ※7 キャリア選択科目に、全学共通社会的・職業的自立促進科目の自立と体験3・自立と体験4の4単位まで含むことができる。

別表第6-5 卒業の要件 情報学部

(1) 情報学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			情報学部	合計
			情報学科	
自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
		健康・スポーツ演習 1	1	
	選択※1	※2	※3	
		カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※4	
外国語（英語）1B	1			
外国語（英語）2A	1			
外国語（英語）2B	1			
外国語（英語）3A	1			
外国語（英語）3B	1			
外国語（英語）4A	1			
外国語（英語）4B	1			

学 科 科 目			情報リテラシーa	2	50	92
			情報リテラシーb	2		
	歴史と文化を 知り、創る	選択※1	※2	※3		
		必修	※2	2		
	社会の営みを 理解する	選択※1	※2	※3		
		必修	※2	2		
	自然と科学を 理解する	選択※1	※2	※3		
		必修	※2	2		
	必修		基礎ゼミナール	2		
			基礎解析Ⅰ	2		
			基礎解析Ⅱ	2		
			情報学基礎	2		
			現代社会と科学技術	2		
			コンピュータシステム入門	2		
			コンピュータ処理Ⅰ	2		
			プログラミング序論	4		
			プログラミングⅠ	4		
			プログラミングⅡ	4		
			コンピュータ処理Ⅱ	2		
		情報学実験基礎	4			
		自立と体験Ⅱ	2			
		情報学実験Ⅰ	3			
		情報学実験Ⅱ	3			
		論文輪構	2			
		卒業研究	8			
選択※5	※2	42				

※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、全学共通教職・資格科目の「教職に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

※5 学科科目選択科目の42単位内に、全学共通教職・資格科目の「教科に関する科目」の単位を4単位まで含むことができる。

## 別表第6-6 卒業の要件 教育学部

### (1) 教育学科

科目区分	必修区分	科目名	卒業に必要な単位数	
			教育学部	合計
			教育学科	
自立と体験	必修	自立と体験Ⅰ	2	32 (必修23 選択9)
特別講義	選択※1	※2	※3	
人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
	選択※1	健康・スポーツ演習Ⅰ	1	
言葉とコミュニケーション	必修 ※4	外国語（英語）1A	1	
		外国語（英語）1B	1	
		外国語（英語）2A	1	
		外国語（英語）2B	1	
		外国語（英語）3A	1	
		外国語（英語）3B	1	
		外国語（英語）4A	1	
		外国語（英語）4B	1	
		情報リテラシーa	2	
		情報リテラシーb	2	
選択※1	※2	※3		

	歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2	
		選択※1		※3	
	社会の営みを理解する	必修	※2	2	
		選択※1		※3	
	自然と科学を理解する	必修	※2	2	
		選択※1		※3	
学科科目	必修	教育学基礎演習 1		1	27
		教育学基礎演習 2		1	
		教育学入門		2	
		教育原理		2	
		教育の制度と経営		2	
		教職入門		2	
		自立と体験 2		2	
		教育インターンシップ 1		1	
		教育インターンシップ 2		1	
		教育心理学		2	
		教育実践ゼミ 1		1	
		教育実践ゼミ 2		1	
		教育実践ゼミ 3		1	
		卒業研究		8	
選択	※2		65	92	

- ※1 全学共通科目選択科目の9単位内に、学科科目で92単位を超えて修得した単位のうち、9単位まで含むことができる。
- ※2 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。
- ※3 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。
- ※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

別表第6-7 卒業の要件 経営学部

(1) 経営学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数		
			経営学部 経営学科	合計	
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)
	特別講義	選択	※1	※2	
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2	
		選択	健康・スポーツ演習 1	1	
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※3	外国語（英語）1A	1	
			外国語（英語）1B	1	
			外国語（英語）2A	1	
			外国語（英語）2B	1	
			外国語（英語）3A	1	
			外国語（英語）3B	1	
			外国語（英語）4A	1	
			外国語（英語）4B	1	
			情報リテラシーa	2	
			情報リテラシーb	2	
		選択	※1	※2	
	歴史と文化を知り、創る	必修		2	
		選択	※1	※2	
	社会の営みを理解する	必修		2	
		選択	※1	※2	
自然と科学を理解する	必修		2		
	選択	※1	※2		
学科科目	必修	自立と体験 2	2		
		経営学概論	2		
		簿記論	2		

		マーケティング論基礎	2	30	92
		会計学概論	2		
		経営基礎 1	2		
		経営基礎 2	2		
		経営基礎 3	2		
		経営基礎 4	2		
		ゼミナール 1	1		
		ゼミナール 2	1		
		ゼミナール 3	1		
		ゼミナール 4	1		
		卒業研究	8		
選択	※1		62		

※1 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。

※2 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。

※3 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

## 別表第6-8 卒業の要件 デザイン学部

### (1) デザイン学科

科目区分	必選区分	科目名	卒業に必要な単位数		合計	
			デザイン学部	合計		
			デザイン学科			
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)	
	特別講義	選択	※1	※2		
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2		※2
		選択	健康・スポーツ演習 1	1		
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※3	外国語（英語）1A	1		※2
			外国語（英語）1B	1		
			外国語（英語）2A	1		
			外国語（英語）2B	1		
			外国語（英語）3A	1		
			外国語（英語）3B	1		
			外国語（英語）4A	1		
			外国語（英語）4B	1		
			情報リテラシーa	2		
			情報リテラシーb	2		
	歴史と文化を知り、創る	必修	※1	2		※2
		選択	※1	※2		
	社会の営みを理解する	必修	※1	2		※2
選択		※1	※2			
自然と科学を理解する	必修	※1	2	※2		
	選択	※1	※2			
学科科目	必修	デザイン概論	2	36	92	
		コンピュータ表現基礎実習 1	1			
		コンピュータ表現基礎実習 2	1			
		企画表現演習 1	2			
		企画表現演習 2	2			
		企画表現演習 3	2			
		企画表現演習 4	4			
		企画表現演習 5	4			
		企画表現演習 6	4			
		企画表現演習 7	4			
		自立と体験 2	2			
		卒業研究	8			
	選択必修	色彩学	2	10		

		デザイン史	2	以上
		美術史概論	2	
		デザイン図学	2	
		デザインと人	2	
		視覚メディア論	2	
		材料学	2	
		デザインと文化	2	
		日本・東洋美術史	2	
		マンガ・アニメーション史	2	
		デザインとテクノロジー	2	
		論考と構成	2	
選択必修		表現基礎実習 A (平面構成)	1	6 以上
		表現基礎実習 B (立体構成)	1	
		表現基礎実習 C (イメージ描画)	1	
		表現基礎実習 D (デッサン)	1	
		表現基礎実習 E (レンダリング・モデリング)	1	
		表現基礎実習 F (印刷技法)	1	
		表現基礎実習 G (彫塑)	1	
		コンピュータ表現応用実習	1	
		材料加工実習 A (紙・布・木)	1	
		材料加工実習 B (金属・樹脂・新素材)	1	
		材料加工実習 C (土・ガラス)	1	
		デザイン製図実習	1	
		デジタル工作実習	1	
		メディア表現実習	1	
		シナリオ制作実習	1	
		サウンドデザイン実習	1	
		クラフトデザイン A	2	
	クラフトデザイン B	2		
選択必修 ※4		視覚デザイン基礎演習	2	14 以上
		グラフィックデザイン A	4	
		グラフィックデザイン B	4	
		グラフィックデザイン C	4	
		マンガデザイン A	4	
		マンガデザイン B	4	
		マンガデザイン C	4	
		メディアデザイン A	4	
		メディアデザイン B	4	
		メディアデザイン C	4	
		視覚デザインコラボレーション	2	
選択必修 ※4		生活デザイン基礎演習	2	14 以上
		プロダクトデザイン A	4	
		プロダクトデザイン B	4	
		プロダクトデザイン C	4	
		インテリアデザイン A	4	
		インテリアデザイン B	4	
		インテリアデザイン C	4	
		ファッションデザイン A	4	
		ファッションデザイン B	4	
		ファッションデザイン C	4	
		生活デザインコラボレーション	2	
選択必修		ポップカルチャービジネス論	2	6 以上
		照明演出論	2	
		インタラクティブデザイン論	2	
		インターネットビジネス論	2	
		ブランディング論	2	
		ソーシャルデザイン論	2	
		デザインマネジメント論	2	
		デザインと法	2	



	選択※5	※1	上限 20 まで※6
--	------	----	------------

- ※1 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。  
 ※2 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。  
 ※3 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。  
 ※4 学科科目選択必修科目のうち「視覚デザインコース科目」と「生活デザインコース科目」は、いずれかのコース科目より選択して14単位以上修得すること。  
 ※5 学科科目選択科目の履修方法は、「履修の手引」に定める。  
 ※6 学科科目選択科目の20単位内に、「全学共通社会的・職業的自立促進科目」のうち、キャリアデザイン2（2単位）のみ、含むことができる。

別表第6-9 卒業の要件 心理学部

(1) 心理学科

科目区分	必修区分	科目名	卒業に必要な単位数			
			情報学部	合計		
			情報学科			
全学共通科目	自立と体験	必修	自立と体験 1	2	32 (必修 23 選択 9)	
	特別講義	選択	※1	※3		
	人間を考える	必修	健康・スポーツ科学論	2		※3
		選択	健康・スポーツ演習 1	1		
	カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション	必修 ※3 ※4	外国語 1A	1		33
			外国語 1B	1		
			外国語 2A	1		
			外国語 2B	1		
			外国語 3A	1		
			外国語 3B	1		
			外国語 4A	1		
			外国語 4B	1		
			情報リテラシーa	2		
			情報リテラシーb	2		
	歴史と文化を知り、創る	必修	※2	2		※3
		選択	※2	※3		
	社会の営みを理解する	必修	※2	2		※3
		選択	※2	※3		
	自然と科学を理解する	必修	※2	2		※3
		選択	※2	※3		
学科科目	必修	自立と体験 2	2	33	92	
		心理学概論 A	2			
		心理学概論 B	2			
		心理統計法 1	2			
		心理統計法 2	2			
		心理学研究法	3			
		心理学実験法	2			
		心理学実験法実習	2			
		心理学検査法	2			
		心理学検査法実習	2			
		専門ゼミ 1A	1			
		専門ゼミ 1B	1			
		専門ゼミ 2A	1			
		専門ゼミ 2B	1			
		卒業研究	8			
選択	※1	59 以上				

- ※1 各科目区分の科目名及び単位数は「履修の手引」に定める。  
 ※2 全学共通科目選択科目は、科目区分「特別講義」、「カリキュラムコア 人間を考える」、「カリキュラムコア 言葉とコミュニケーション」、「カリキュラムコア 歴史と文化を知り、創る」、「カリキュラムコア 社会の営みを理解する」、「カリキュラムコア 自然と科学を理解する」、より選択して9単位以上修得すること。  
 ※3 外国語科目は、外国語（英語）・英語（独語）・外国語（仏語）・外国語（中国語）・外国語（韓国語）のうち同一言

語で8単位修得すること。

※4 大学が主催する語学研修に参加した学生のうち、研修期間終了後、所定の成績を修めた者は、原則として当該年度履修している外国語科目の単位（1回の研修につき2単位）に替えることができる。ただし、その上限は1カ国語4単位とする。

別表第7 欠席必要書類

事由		担当教員への提出書類
大学又は公的事由	実習科目等 (教育実習、福祉実習、介護等体験、インターンシップ等)	担当部署の発行する書類
	留学(本学主催の留学)	国際教育センター発行の証明書
	裁判員裁判	公的証明書
	感染症	医師の診断書
	課外活動(大会への出場)	学生サポートセンター発行の課外活動届
	就職試験	受験通知の写又はキャリアセンター発行の書類
	その他	学生が所属する学部の学部長の判断による
私的事由	交通機関遅延	遅延証明書
	忌引(配偶者及び第1～3親等)	学生サポートセンター発行の忌引届
	傷病(感染症を除く)	医師の診断書又は日付・氏名入りの病院の領収書
	ボランティア活動	公的活動団体の発行する証明書
	その他	学生が所属する学部の学部長の判断による

別表第8 追試験必要書類及び試験料、並びに採点基準

事由		教務企画課への提出書類	試験料	採点基準
大学又は公的事由	実習科目等 (教育実習、福祉実習、介護等体験、インターンシップ等)	担当部署の発行する書類	なし	10割
	留学(本学主催の留学)	国際教育センター発行の証明書		
	裁判員裁判	公的証明書		
	感染症	医師の診断書		
	課外活動(大会への出場)	学生サポートセンター発行の課外活動届		
	就職試験	受験通知の写又はキャリアセンター発行の書類		
	その他	学生が所属する学部の学部長の判断による		
私的事由	交通機関遅延	遅延証明書	なし	10割
	忌引(配偶者及び第1～3親等)	学生サポートセンター発行の忌引届		
	傷病(感染症を除く)	医師の診断書		
	ボランティア活動	公的活動団体の発行する証明書		
	その他	学生が所属する学部の学部長の判断による		
			1,000円	8割※

※採点基準の8割とは、上限を満点の8割として採点するものとする。

別表第9 成績の評価、評語及び評価基準

評価 学則で 定める評価	評語 成績通知書 記載	評価基準	合否等
S	S	100点～90点	合格
A	A	89点～80点	
B	B	79点～70点	
C	C	69点～60点	
P	P	合否判定科目において、判定基準を満たした科目	不合格
F	F	59点以下	
	X	欠席回数は授業回数の1/3未満だが、試験を欠席。 欠席回数が授業回数の1/3以上 (学則第25条により、当該科目の受験資格を失った者)。	
H	H	合否判定科目において、判定基準を満たさない科目	
-	I	追試験対象の学生が病気等によって追試験を受験できず、成績入力期限に間に合わない場合。	保留
-	W	長期の病気等によって、履修登録訂正期間内に登録取り消しができなかった場合、または訂正期間以降登録科目の受講が困難になった場合で特別に履修登録取消を認めた場合。	履修登録 取消

別表第10 成績の評価に係る異議申立ての条件

条件	
1	当該科目は「履修登録」をした科目である。
2	当該科目の授業の欠席回数は、授業回数の1/3未満である。
3	当該科目の授業中に課せられたレポート等成果物を全て提出している。及び授業期間内で随時行われた試験を全て受験している。
4	当該科目の定期的に行う試験又は、追試験を受験している。

別表第11 GP

区分		評価	GP
GPA 対象	合格	S	4.0
		A	3.0
		B	2.0
		C	1.0
GPA 対象外	不合格	F	0.0
	合格 (合否判定科目)	P	—
	不合格 (合否判定科目)	H	—
	単位認定 (単位認定科目)	T	—